



# NAGOYA CITY UNIVERSITY EAST MEDICAL CENTER

初期臨床研修医・後期臨床研修医 研修ガイド

名古屋市立大学医学部附属  
東部医療センター





# 名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター

許可病床数 520床

## 診療科目

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液内科、内分泌・糖尿病内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、脳神経外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、救急科、病理診断科、麻酔科、歯科口腔外科

## 病院機能

臨床研修病院、卒後臨床研修評価機構認定病院、日本医療機能評価機構認定病院(3rdG: Ver.2.0)、三次救急指定医療機関、地域医療支援病院など



## 断らない救急を目指す病院

～ 救急医療、心臓血管・脳血管疾患  
などの高度・専門医療～



カテーテルアブレーション治療の様子



ハイブリッド手術室

## 数字で見る東部医療センター

- 医師数…………… 106人\*
- 初期臨床研修医数…………… 16人\*
- 後期臨床研修医数…………… 31人\*
- 1日平均外来患者数(令和3年度) …… 905人
- 1日平均入院患者数(令和3年度) …… 389人
- 救急搬送件数(令和3年度) …… 6,720件
- 手術件数(令和3年度) …… 4,788件
- 内視鏡検査件数(令和3年度) …… 4,015件

\*令和4年4月現在





## 初期研修の特徴

- 1 三次救急病院として救急搬送件数が6,500件以上、豊富な症例をファーストタッチで経験でき、医師としての土台作りに貢献。
- 2 平成27年3月に新しい救急・外来棟を開棟、救急・集中治療部門、手術室がさらに充実。
- 3 臨床研修センターがサポート、適度な規模でアットホームな雰囲気の中で、総合的な知識と技術が習得可能。
- 4 救急症例検討会、抄読会、スキルアップ講座、シミュレータ研修などのプログラムが完備。

## 表で見る初期研修プログラム例

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1年次	オリエンテーション	内科					救急科	麻酔科	外科	泌尿器科	整形外科	産婦人科	
2年次	小児科(西部)	救急科	精神科(名古屋市大)	地域医療	外科	選択科目							

- 各科の専門医が充実しており、ローテートで専門医から指導を受けられます。
- 選択科目で名古屋市立大学病院、西部医療センターをはじめ研修協力病院・施設にて指導を受けることができます。

## 数字で見る初期研修 \*令和4年4月現在

- 研修医数……………16人(1年次8人、2年次8人)\*
- 指導医数……………58人\*
- 専門医数……………79人\*
- 当直開始時期……………1年次4月
- 研修医以外の当直医数……指導医・上級医・後期研修医計6人
- 1ヶ月平均当直回数……………4~5回

## 良き研修はここにあり! 救急医療で大きな自信を 臨機応変なプログラムでキャリアの土台として最高の研修に

東部医療センターの初期研修の最大の強みは、救急医療の最前線に立ち続けることにより、当院での2年間の研修を乗り越えた後は大きな自信を得ることができる点にあります。指導医の数に対して研修医の定員が適正であり、十分な指導を受けられる体制が整っています。

臨床研修センターでは、研修医に担当指導医を当てるメンター制を導入しており、研修に関する希望、疑問、悩みなどを相談できます。また、臨床研修センタースタッフとともに、スケジュールの調整、労働環

境の整備などを行なっています。プログラムの内容も希望に合わせて調整が可能で、きめ細かい指導を心がけています。

大学病院化により多様な指導医が増え、三病院の連携によってこれまで以上に多彩な選択肢が提供できるようになります。当院での研修が皆さんのキャリアの土台として最高に良いものとなるよう、センタースタッフ一同、日々努力して参ります。一緒に頑張ってくださいませ。



臨床研修センター長  
山田 健太郎 (脳神経内科)  
Kentaro Yamada

しっかりとした指導体制や明るい雰囲気の特徴。  
日々、多くの症例にふれ、発見の連続です!



丹羽 悠斗 (1年目研修医)

Yuto Niwa

—東部医療センターを初期研修病院に選んだ理由は何ですか。

いくつか病院を見学したなかで最も雰囲気がいいと感じたからです。先生方もスタッフの方たちも明るく、人柄が良さそうで、仕事には真剣に向き合っていてメリハリがあるなと思いました。こうした職場環境に加え、立地や給与も含め、トータルでバランスが取れていると判断し、ここを選びました。

—現在、研修医は何人いますか。

1年目が14人(名古屋市立大学病院 協力型病院連携研修プログラムも含む)、2年目の先生が8人です。同期はやはり名古屋市立大学出身者が多く、県外の大学出身者は僕を含め3人ですが、そのうち全員が愛知県に実家があるなどゆかりがありますね。みんな仲が良く、研修医室で話すだけでなく、プライベートでも遊びに行きますよ。

—ローテート科での研修医の役割を教えてください。

内科では病棟の患者さんの主治医の先生と一緒に回診をしたり、外来に対応したりし、外科では手術の際にカメラを持つなどの補助を行います。

受け持っている患者さんは、平均すると6、7人です。志望する診療科など、自分が力を入れたいところでは、担当人数を増やすことも可能で、より多くの症例を知ったり経験を積んだりできます。受け持ちの増減はまったく強制されず、要望が通りやすいので、緩くしたいなら緩くできるし、しっかり勉強したいと思えば充実させられる仕組み。自分の姿勢次第です。

指導医・上級医はどなたも優しく、先生方にとっては当たり前なことでも、丁寧に教えてくれます。今は研修医という“初心者”であることを活かし、とにかく聞きまくっています(笑)。キャリアの少ない1年目が最も質問できる時期なので、それを存分に活用して知識を吸収しようとしています。

—当直ではどんな役割ですか。

救急車や徒歩などで患者さんが来院したら、問診、検

査、その結果評価・診断をして、上級医の先生に相談して処置します。ちなみに、先生への相談はどの段階でもできます。

当直は、この病院では1年目の4月半ばからと比較的早い頃に始まりました。当初は右も左も分からない状態でしたが、6月頃までは1年目研修医2人、2年目研修医2人という体制で、一つ上の先輩がついて教えてくれるんです。7月頃からは、1年目研修医2人、2年目研修医1人という体制で、それぞれ個別で対応に当たります。当直とは別に救急科のローテート研修もあり、皆ここで成長するように思います。縫合も早くきれいにできるようにになりました。症例は無限にあり、毎日新しい発見の連続です。

—東部医療センターを研修病院に選んで良かったこと、また、やり甲斐は何ですか。

当直は多い方だと思いますが、その分経験を積めますし、指導体制がしっかりしているため、正しい知識や手技を身につけられることが良い点です。仕事量がほど良く、名古屋の中心に近い立地だからプライベートでも便利で、モチベーションをキープできます。また、知識やできることが増え、手技が上達したことで、専門医の先生に認めてもらえた時にやり甲斐を感じます。たとえば、外科で手術に入った際、これまでの経験から流れを読んで、必要な手順を先回りして行動できた時などです。

—最後に、学生の皆さんへメッセージやアドバイスをお願いします。

研修病院選びでは、研修医の人数も検討材料にすると良いのではないのでしょうか。臨床研修後、同期はそれぞれ各地に散らばり様々な病院の様々な診療科に進みます。人数が多いと、将来、幅広い連携が取れると考えられます。少人数だとネットワークの輪があまり広がらないし、逆に多過ぎるとまとまりにくいので、僕にとってはこの病院の研修医数がちょうどいいんです。同期をはじめとする人とのつながりは、研修中の今もこれから先も、大切にしたいと思います。



## 救急医療の充実度が、選んだ決め手。 手厚いサポートのもと、知識を高め、経験を積めます！



能城 奈未 (1年目研修医)

Nami Noshiro

—東部医療センターを初期研修病院に選んだ理由を教えてください。

救命救急センターの指定を受け、救急医療に力を入れている病院なので、三次救急をしっかりと研修できる教育体制が整っていると思ったからです。名古屋の中心地に近く、周りに生活に必要な施設もある利便性、アクセスの良さ、給与なども考慮しました。ほかに、もし臨床研修後もここで働くとしたら、子育てと仕事と両立できそうな環境だなと、プライベートを含めた長期的な視点でも魅力を感じました。

—ローテート各科ではどのような研修を行っていますか。

専門医の指導のもと、病棟や薬の管理などのほか、手技も行っています。たとえば、消化器内科では胆嚢ドレナージ、呼吸器内科では胸腔ドレナージを行ったり、循環器内科ではカテーテルを入れたりといったことです。自分が興味のある診療科では、10人以上の患者さんを受け持ち、様々な症例にふれて経験を積むことができます。基本的に、自分がやりたいと思うことをやらせてもらえる環境です。忙しい時もありますが、勤務時間内に終了しますし、ムリな働き方はありません。

—どのような指導体制ですか。

指導医・上級医が分かりやすく丁寧に教えてくれます。通常のローテート研修に加え、約2週間ごとに症例検討会や、各科の医師が救急患者さんを診る上でのポイントを教えてくれるスキルアップ講座もあり、知識を高めることができます。勉強会での資料づくりの際も、研修医だけでは正確かどうか判断できない場合があるため、先生が資料を添削してサポートしてくれます。勉強会が多過ぎると、知識を吸収しきれないうちにどんどん進んでいきそうですが、ここはちょうど良い頻度。自分で勉強する時間もちゃんと確保できるのが良いところです。また、研修医室には2年目の先生もいるため、気軽に話を聞けるのもいいですね。

—当直ではどのような働きをしますか。

4月から救急車のファーストタッチに入ります。最初は大変でしたがすぐに慣れますし、早い時期からがんがん働かせられます。三次救急の場合は、救急科の先生とペアを組むため、つねに現状の評価や自分がすべきことが分かり、私のアセスメントと先生のアセスメントをすり合わせながら診察できます。正解の分からない救急医療ではないので安心できます。

また、当直で診た症例は、翌朝、救急科の先生方に向けて発表し、なぜこの検査をオーダーしたのか、この行動で正しかったのかなどを振り返ります。一般的には忙しいとされる救急であっても、一つひとつの症例をじっくりと見られるのが特徴的。ここまで救急科の専門医が揃っている病院はありませんし、対応を振り返って次に活かす機会を設けてくれるのもいいですね。

—東部医療センターを研修病院に選んで良かったこと、また、やり甲斐は何ですか。

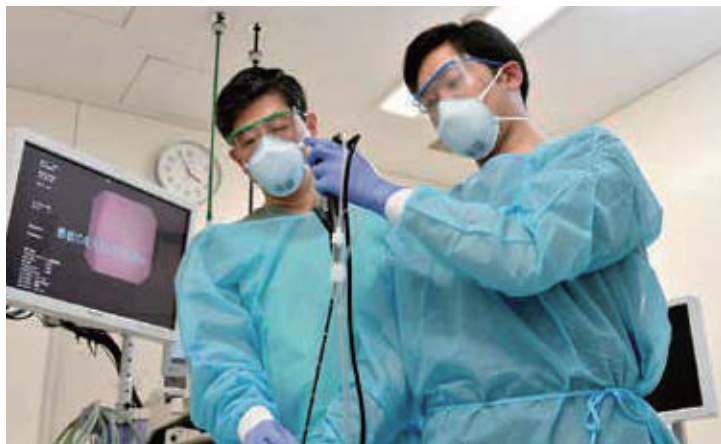
良かったことしかありませんね(笑)。選んだ理由で挙げたことが、予想を上回って実現されています。同期も、ネガティブに思っている人はいなさそうです。指導体制がしっかりしていて、給与も働いた分だけだし、充実した毎日を過ごせています。

やり甲斐は、やはり患者さんから「ありがとう」といわれることです。これまでの病歴を伝えるとか、怖さや不安を打ち明けるといのは、医師に対して信頼がないと難しいので、できるだけ先回りして気持ちを察し、患者さん目線で話をするようにしています。それが信頼関係につながり、相手から感謝されたらうれしいですね。

—学生の皆さんへメッセージをお願いします。

臨床研修病院を選ぶ基準は人それぞれですが、東部医療センターはどの面からもバランスが良いのが特徴です。選んで後悔しないと思いますので、候補として検討してみたいかかでしょう。公私ともに充実し、明るく楽しい研修生活が送れると思います。

東部医療センターでは、医師免許取得後3～5年目の方を後期臨床研修医(シニアレジデント)として専門研修プログラムを実施しています。



東部医療センターでは内科・救急科の基幹施設として、専門研修プログラムを提供しています。自由度の高い実践的な専門研修により、一人ひとりのキャリアゴールに向けて、臨床経験豊富な指導医一同、全力でサポートします。また、基幹施設となっていない基本領域のうち、東部医療センターは14領域の専門研修プログラムにおいて連携施設となっています。

## 専門研修プログラムデータ

	募集人員	医師数	専門医数	外来数 (1日平均)	入院数 (1日平均)	手術数 (年間)
内科	10	35	19	367	202	18
救急科	3	5	5	34	1	1

基幹施設としてのプログラム以外でも、名古屋市立大学病院等の専門研修プログラムの連携施設として、西部医療センターで専門研修を行うことができます。

内科	小児科	皮膚科	精神科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	脳神経外科	放射線科	麻酔科	病理	救急科	リハビリテーション科	総合診療
●	□	□		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	●	□	□

●: 基幹施設 □: 連携施設または関連施設





## 内科専門研修

病院長補佐  
前田 浩義

### 【主な研修施設】

〈基幹相互連携施設〉

名古屋市立大学病院、西部医療センター、  
豊川市民病院

〈地域医療密着型連携施設〉

旭労災病院、知多厚生病院、稲沢厚生病院、  
三重北医療センターいなべ総合病院

〈特別連携施設〉

みらい光生病院

### 【プログラムの特徴】

- 当院を基幹施設として、名古屋市内およびその近郊の医療圏(愛知県尾張・三河、三重県東部医療圏)にある連携施設・特別連携施設における内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるようにします。
- 研修期間は基幹施設1年間以上+連携施設・特別連携施設1年間以上で合計3~4年間になります。
- 心臓血管センター、脳血管センター、内視鏡センターなどとともに、ICU・CCU・HCUを整備して様々な救急疾患に即応できる体制および設備を整えており、豊富な救急症例を経験できます。

### 【研修生へのメッセージ】

名古屋市北東部医療圏の中心的な急性期病院である当院と、近隣にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。主担当医として、入院から退院(初診・入院~退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指していただきます。



## 救急科専門研修

病院長補佐  
松嶋 麻子

### 【主な研修施設】

愛知医科大学病院

藤田医科大学病院

堺市立総合医療センター

一宮市立市民病院

刈谷豊田総合病院

独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院

### 【プログラムの特徴】

- 救急医療の中心を担う専門医を育成するプログラムです。愛知県では各診療科が救急医療に協力する体制が整っており、そこで救急医に求められるのはすべての救急患者の重症度・緊急度を見極め、必要な診断と初期治療を行い、適切な診療科や医療・介護サービスへ引き継ぐことです。多発外傷や広範囲熱傷、重症中毒など適切な診療科がない場合は、自分で重症患者の診療も引き受けます。これらの能力は今後起こり得る災害の多数傷病者の対応においても大きな強みとなります。
- 東部医療センターの救急科専門医プログラムでは、東部医療センターの研修に加え、連携施設で少なくとも1年間、三次救急を重点的に研修する期間を設け、重症患者の初療から回復期までの診療を学びます。軽症から重症まで、先を見通した救急診療ができるようになることが目標です。

### 【研修生へのメッセージ】

初期研修の2年間では、救急外来の患者一人一人について重症度・緊急度に応じた対応ができることを目標とします。救急科専門医は救急外来で同時に複数の患者に対し、患者の予後を見据えた初療を行います。時には自分で重症患者の診療を担うこともあり、これらに必要な能力を専門医プログラムで研修します。状況を俯瞰的にみてマネージメントすることが得意な人にお勧めです。



# 初期臨床研修医・後期臨床研修医の勤務条件

\*勤務条件等は令和4年4月現在のものとなります。

## 初期臨床研修医

- 勤務時間 平日8時45分～17時15分  
(途中休憩1時間あり)
- 宿日直勤務 有り(宿直後は勤務なし)
- 給料月額 400,000円
- 通勤手当 自動車等又は公共交通機関による  
通勤者へ支給あり
- 研究研修費 100,000円/年
- 年次休暇、忌引休暇、夏季休暇などあり

## 後期臨床研修医 (シニアレジデント)

- 勤務時間 平日8時45分～17時15分  
(途中休憩1時間あり)
- 宿日直勤務 有り(宿直後は正午まで勤務)
- 給料月額 548,000円(調整額を含む)
- 緊急呼出業務手当 支給あり
- 通勤手当 自動車等又は公共交通機関による  
通勤者へ支給あり
- 研究研修費 200,000円/年
- 年次休暇、忌引休暇、夏季休暇などあり

## 子育て支援制度

- 院内保育所あり
- 基本保育、延長保育、病後児保育のほか  
週2回の夜間保育あり(宿直時の夜間保育料無料)
- 育児休業(無給)、部分休業(無給)、  
子の看護休暇(有給)などあり



院内保育所



院内コンビニ



## 見学などのお問い合わせ先

名古屋市立大学医学部附属 東部医療センター

〒464-8547

愛知県名古屋市千種区若水一丁目2番23号

管理課庶務係 臨床研修担当

TEL: 052-721-7171

E-mail: res.emc@med.nagoya-cu.ac.jp

